



一般社団法人 都市計画コンサルタント協会

協会レビュー 2017年第4号

協会での取り組み

国交省職員と楽しく情報交換ができます！

「都市計画に係る中堅・若手技術者交流会」今年も開催します

協会では、国土交通省で都市計画行政を担う担当者と、実務者である民間コンサルタントが、胸襟を開いて交流できる機会「都市計画に係る中堅・若手技術者交流会」を平成20年から運営しています。

この交流会では、官民それぞれの第一線で活躍している実務者の相互理解を促進できる良い機会となっています。

本号では、この交流会の運営に昨年度まで携わった株式会社サンワコンの北本治和様に、交流会の概要や狙いについてお話を伺いました。

(編集部 津端・楠亀)



北本治和様 (写真左: (株) サンワコン)

1. 都市計画に係る中堅・若手技術者交流会とは

都市計画に係る中堅・若手技術者交流会とは、国土交通省の職員（都市計画課や市街地整備課などの調整官から課長補佐レベルが中心）と、当協会の会員企業の職員（7年以上のキャリアをもつ概ね45歳未満を基本）が、都市計画やまちづくりに関する様々な話題について意見交換を行い、相互理解を深める場となっています。

国土交通省職員とコンサルタント職員が交流できる機会は、業務上での関わりやセミナーなどの場を除くと、なかなかありませんが、官民の事情を共有し、刺激を受け、それぞれの実務に活かすことを目的として、平成20年度に交流会がスタートしました。東日本大震災後に一時中断した時期はありましたが、平成25年度から再開しています。

当初の交流会は、手探りでスタートしたため、国土交通省職員の前でコンサルタント側の参加者は率直な意見を発言しにくい雰囲気もあったようです。このため、コンサルタント側の参加者も発言しやすいテーマ設定や懇親会を設けるなどの工夫を行い、現在では自由に活発な意見交換ができる場となっています。



2. 交流会の概要

交流会は、毎年度 8 月頃に 10 名程度の参加者を募集し、毎年秋から年明けにかけ 3 回行われます。交流会の流れは、初回は自己紹介と討議テーマの確認、2 回目、3 回目は各テーマに沿った意見交換となっています。また、初回の終了後には懇親会があり、打ち解けた雰囲気の中でさらに踏み込んだ意見交換も行われています。

これまで意見交換されたテーマとして、「日常の業務遂行や発注者対応等に関して困っていることや疑問に感じていること」「計画の実行性を高めるために果たすべき役割」「立地適正化計画の策定における工夫や課題」「エリアマネジメントの取り組み」「まちづくりの賑わい創出における公民複合施設（PPP）事業の事例」など、近年の潮流から日頃のお悩み相談まで幅広い内容があります。テーマの設定方法は、参加者募集の時点で討議したいテーマを募った上で、国土交通省側と調整して設定しますが、専門的なテーマよりも参加者が共有できるテーマに重点を置いています。

また、話題提供の際には資料を新規に作成せず手持ち資料のコピーだけでよい、3 回目の開催時期は 1 月中に終わらせて年度末を避けるなど、参加者の負担軽減も図られています。

■ 交流会の様子



■ 各年度の概要（平成 25 年度以降）

開催回		交流会の概要
平成 25 年度	第 1 回	日常の業務遂行や発注者対応等に関して困っていることや疑問に感じていることなどについての具体的な事例を交えながら自己紹介し、意見交換
	第 2 回	第 3 回交流会に持ち寄るネタについてのすり合わせ
	第 3 回	メンバーが携わった業務の中の良い事例を紹介し、意見交換。
平成 26 年度	第 1 回	日常の業務遂行や発注者対応等に関して困っていることや疑問に感じていることなどについての具体的な事例を交えながら自己紹介し、意見交換。
	第 2 回	各メンバーから話題提供し、意見交換。
	第 3 回	



平成 27 年度	第 1 回	自己紹介の後、今年度の基本的な運営方針について共有
	第 2 回	各メンバーから話題提供し、意見交換
	第 3 回	話題提供例（エリアマネジメントの取り組み、行政主導から民間主導のまちづくりへのシフトの支援、まちづくりからの教育分野へのアプローチの可能性、都市再生整備計画事業を契機としたまちづくり活動の事例、公民複合施設（PPP）事業の事例）
平成 28 年度	第 1 回	自己紹介の後、今年度の基本的な運営方針について共有
	第 2 回	各メンバーから話題提供し、意見交換
	第 3 回	話題提供例（立地適正化計画の策定における工夫や課題、広域的な交流・対流の促進策と相乗効果、海外に学ぶ都市の交通政策、計画の実行性を高めるために果たすべき役割、再開発事業における都市計画業務への対応、技術者に求められる能力）

3. 参加者の反響や今後の展望

参加者からは「都市計画やまちづくりに対する日頃の思いを、国土交通省の職員と直接意見交換できるまたとない機会だ」、「国土交通省、同業他社のことがよくわかる」など、好評を得ています。会合は国土交通省内で行われますが地方からの参加者もあり、「このためだけに東京に来る価値がある」といった感想もありました。国土交通省からも、「現場や実務の話を通じて大変勉強になる」などの声が届いています。

また、交流会参加者の中には、リピーターとなり、何度も参加されている方もいます。

事務局としては、交流会を通じて知り合ったコンサルタント同士が、会が終わった後もつながりが持ち続けられるように、例えば同窓会を開くなどのような継続的な広がりを持てることを展望しています。

4. 平成 29 年度の募集が間もなくスタートします！

平成 29 年度も、交流会への参加募集を 8 月後半に予定しています。詳細が決まり次第、協会ホームページ（<http://www.toshicon.or.jp/>）などでお知らせします。今年度も多くのご応募、お待ちしております。

5. おまけ（編集後記）

編集部（津端）も平成 25 年度の交流会に参加しました。受発注形態について、例えば年度を跨がる継続案件に対して、契約が年度単位となることの非効率性や受注リスクを軽減するため、発注方法も含めた工夫を発注者側に積極的に相談・提案してはどうかといった論点で意見交換を行ったことを覚えています。また、会とは別途の機会に、ご一緒した国土交通省職員の方に法制度の件で気軽に電話問い合わせをするなど、参加を通じて得られたネットワークを活用させてい



ただきました。初回の自己紹介の際、名刺交換をしたのですが、私を除く職員・コンサルタント
ほぼ全員の方に、「技術士」の記載がありました。当時、技術士を持っていなかった私は思わぬ刺
激を受け、発奮して技術士の取得につなげたことも、良き思い出です。

協会レビュー 2017年第4号（平成29年7月発行）

発行元 一般社団法人都市計画コンサルタント協会

〒102-0093 東京都千代田区平河町二丁目一丁目一八号 ハイツニュー平河3F

Phone 03-3261-6058 Fax 03-3261-5082 E-mail info@toshicon.or.jp

Website <http://www.toshicon.or.jp/>

編集責任者 須永和久